

町長コラム 温故創新



縮充のまちづくり

少子高齢化が進む中で「縮充」とは人口などの縮小を受け入れつつ、地域や社会の充実を図るという考え方です。一見矛盾する造語のようにも思えますが、縮充ウールのマフラーには縮む特性を活かし、毛の密度が高まり暖かさが増す事を売りにしている製品があり、例え話のひとつになっています。

まちづくりでも、人口は減っても人と人がつながり、手を加えれば温もりのある元気な地域にすることは、まだまだ可能と考えています。

縮小＝衰退という後ろ向きな捉え方ではなく、身の丈にあった持続可能な豊かさの追求が縮充の根本にあります。人口減をマイナスのイメージだけでなく、プラスのイメージも持つことが重要かもしれません。小さいから強い、小さいからできるという発想もあります。



例えば、山林の縮充では、すべての山林の活用ではなく、守る

山・還す山・使う山を分類し、一部を自然林化へ誘導することで山の涵養機能かんようを守りながら収益性や生物多様性を両立させ、管理コストも低減させる山づくりが検討されています。

地域づくりにおいては、従来の「ものさしを変えてみる」「量から質へ」「密度を高める」などのアイデアが、みんなの「なるほど」「便利」「楽しい」「良かった」につながり、共感できる結果になることが大事です。

くるま座トークやおる君の学校に行こう、各種団体との意見交換でも建設的で楽しいアイデアや提案を多くいただきます。この実現には、多くの方のみなさんの参加と参画が不可欠です。

町でも、さまざまな提案を具現化できるように努力していきますので、自分事としてまちづくりへの参加を新年度もよろしく願います。

庄内町長 富樫 透